

（へわたなべ・こう） 1958年生
まれ。東京出身。金沢大学医学部卒業。
後、同大学病院第一外科に入局。帰国後、
ハノイ医科大学へ留学。帰國後、富山医
科薬科大学助教授を経て、41歳で金沢大
学大学院第1外科教授就任。
14年5月から現職。

「私は今55歳。外科医として残された時間をすべて外科医に費やしたい。会議や学会など余計なことに煩わされると、とくに患者と自分とのために仕事がしたかったのです」

渡邊 剛 総長

異色の医師

みやそねみは想像に興
くない。
「教授になり臨床にす
ぐで使える研究がした
かったし、頭の中のア
イデアを発見して、後

A black and white portrait of Dr. Toshiyuki Yamada. He is a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a white medical or laboratory coat over a light-colored shirt and a patterned tie. He is gesturing with his right hand, pointing his index finger upwards towards the camera. The background is slightly blurred, showing what appears to be a clinical or laboratory setting.

「チ！」と掲載される
医が浜沢元新聞に「第1回
外科ビンズ！」と題し、
日連続で掲載されまし
た。

花形教授の仕事はもうやり尽くした
東京で勝負に出た心臓の
口ボット手術の先駆者

**東京で勝負に出た心臓の
ロボット手術の先駆者**

タバベは「この10年間で心臓疾患に関する手術や循環器内科の充実しで99・5%以上の成功率を誇るといふ。」
「はじめは、動物実験をしていて、とか、「コントが高割にメリッとした。私が医者を目指すのが少ないと、とか、「ますきかけになつた海だまだ危ない」など、画「ラック・シャック」のように自由診療をする患者さんが大勢いました。それで13年間いました。ダヴィンチの教授生活でやりたることはやり尽くしたから。でも、病院を辞めることを話ダントで大学にも貢献した。」
「同じくする医師がいることはやり尽くしたから。でも、病院を辞めることを話すと、同僚の中から志を同じくする医師がいる」と述べた。この10年間で心臓疾患に関する手術や循環器内科の充実しで99・5%以上の成功率を誇るといふ。」
「初回は、こちらなりして病院を考えています。私が医者を目指すのが少ないと、とか、「ますきかけになつた海だまだ危ない」など、画「ラック・シャック」のように自由診療をする患者さんが大勢いました。それで13年間いました。ダヴィンチの教授生活でやりたことはやり尽くしたから。でも、病院を辞めることを話すと、同僚の中から志を同じくする医師がいる」と述べた。

地元紙に「第1外科ピン」の医療への第一歩を踏み出した。日本で初めてダヴィンチを使った心臓手術をしたのが5年、以来毎回、猫の手の重さをもって手術においています。私がスマをすれば、「やっぱりロボットは危ない」というレッテルが貼られてしましますから」のダヴィンチを中心、年間2000例の手術が目標だといふ。

「チ！」と掲載される
医が浜沢元新聞に「第1回
外科ビンズ！」と題し、
日連続で掲載されまし
た。

卷之三

卷之三

10